連載70 在宅医療奮闘記

平成7年より在宅を開始した私の思い出

（医）東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義（65歳・内科）

在宅専用車の窓から見える風景は、時代の写し絵。そして、危険と隣り合わせ。

在宅医療は、診療所より半径16キロメートル以内の地域空間を車で移動しながら、日々、患者さんのベッドサイドで医療行為をしています。

ある日、運転中の職員と「最近は、郊外を中心にテナントビルの空室・入居者募集がやたらと目立つね。アベノミクスの恩恵がみられず、気持ちも沈んでいるようだね・・・」などと話していました。すると、両耳にイヤホンをしてデジタルオーディオプレーヤーで音楽を聴きながら自転車で帰宅している女学生が、左前に見えました。私たちの乗っている車は電気自動車で、エンジン音が小さく、彼女が気付かないといけないので、用心しながら追い越そうとしました。しかしその瞬間、彼女は直角にハンドルをきり、車の前を横切って来たのです。「あっ！危ないっ！！」と思わず急停車したのですが、彼女は何事もなかったかのように、3メートルほど前を横切って、先へと行ってしまいました。危うく大惨事となるところだったと思うと、背筋がゾォーッと冷たく感じられました。

利便性（電気自動車）と芸術性（音楽）は、組み合わせ方次第では、危険に遭遇してしまうこともあるようです。

現在、人間社会の技術進化、イノベーション、思想、時間など個々の切り口では、急速に変化やスピードが速くなり、臨界点に近づいている状態になっています。

それは、生命にとっては危険な現象でもあります。ですから、全体に調和のとれた安全・安心な空間を構築できる新しい哲学や社会のシステムが待たれてもいるのです。

「お医者さんが来てくれる」
24時間・365日態勢で対応（松山市全域）
私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。

医師数 20名
（常勤6名、非常勤14名）
内科・外科専門医 17名
（国立がんセンター勤務歴有3名）
精神科専門医 2名
麻酔科専門医 1名
（ペインクリニック科）
末期がん治療（緩和ケア）相談室開設！

Hyper Blood Viscosity（高血液粘度群）を科学する
臨床生命科学（体質・病態学、栄養学）研究所開設
機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
（医）東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788
http://www.touzaikai.jp/